ガンコ親父のボールに乾杯！

サッカー好きな人間は、睡眠不足を友達にしなければならないということだ。松次郎の会社の若い連中は、試合の結果やひいきの選手の働きぶりに一喜一憂しながらも盛り上がっていた。スポーツや祭り好きな松次郎もその雰囲気を楽しんではいたが、気分の盛り上がりには、父の日前日に届いた一通の手紙のほうが大きかった。それは松次郎に忘れていた出来事を思い出させてくれていた。

松次郎が結婚したての頃、近所に若い母親と幼い少年の母子家庭があった。その少年が紙を丸めて作ったボールを、近くの塀にぶつけて遊んでいるのをよく見かけた。気になった松次郎は少年に声をかけた。「野球、好きなのかい？」

はにかみながら少年は首を縦に振った。

みんなと一緒に野球をしないのかと松次郎は聞いたが、少年はうつむいたまま答えず、すぐに走り去ってしまった。

その少年の家庭のことも、おかれている経済状態もおおよそ察しがついた。そうだ、小さい頃、親戚の叔父さんにもらった小ぶりの青バットがあったはずだ。松次郎は家に帰り、納屋からクモの巣と埃にまみれた青いバットを探し出した。

給料に余裕のない松次郎は、不要になった子供用のグローブはないかどうか、会社の先輩に尋ねて回った。しかしながら、そんなグローブは見つからなかった。ボールだけは買えそうだったので、小型のソフトボールを小遣いで購入した。

ある日、路地裏で遊んでいた少年に松次郎はバットとボールを渡した。少年の顔にパッと明るさが宿ったが、すぐに複雑な表情に変わり、「お母さんが…」と言いながらバットとボールを押し返そうとした。

松次郎は、君にどうしても貰ってもらいたいと訴えかけた。結局、少年に無理矢理受け取らせた。

翌日の夜、さっそく少年を連れて母親がバットとボールを持って現れた。理由もなく受け取るわけにはいかないと松次郎に言った。松次郎は「息子さんと約束したんです。そのかわり、チームに入って絶対にレギュラーになるってことを」と、即座に嘘をついた。嘘をついた松次郎には後味の悪さが残ったが、仕方がなかった。

やっとのことで、母親が松次郎の想いに納得した瞬間、後ろにいた少年は安堵し、表情はやわらいだ。

少年は立派な社会人になっていた。父の日の前に舞い込んできた手紙は、松次郎を興奮させた。

「自分で立ち上げた会社内に、ようやくこの年になって、野球のクラブチームを作ることが出来ました。そして遅くなりましたけど、私は今、レギュラーです」と、手紙に書いてあった。「あの時、父親がいなかった自分にとって、あの時、あなたは父親以上のようだった」と感謝の言葉が続いていた。

松次郎は自分の行動が間違っていなかったことを再確認できた。温かいものが全身を駆け抜けていった。

サッカーも良いけど野球も良いじゃないか。よし、どちらにせよ、すぐに孫の譲（ゆずる）にボールを買ってあげるようにしよう。松次郎は上機嫌で「しまっちゅ伝蔵」のロックを飲み干した。まだ、孫は生後六ヶ月だというのに、早くもガンコな前のめりの姿勢だ。

奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵（でんぞう）

常圧蒸留

25度

好評発売中

900㎖（25度）

1800㎖（25度）

1800㎖（25度）

昔ながらの手造りこだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

2014年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造㈱は、この活動を応援しています。

the most beautiful villages in japan
喜界町
鹿児島県

くろちゅう
喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997（65）0251

http://www.kurochu.jp

お酒は20歳になってから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児に悪影響を与えるおそれがあります。